

# 5 透明性の高い 開かれた事業活動

## 2008年度 基本方針

- 当社事業への理解促進、そして社会のみなさまに選んでいただける企業グループをめざし、質の高い「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」を展開します。
- 日々の業務を通じて、お客さまからいただいた貴重なご意見を、事業活動に反映します。



2009年3月にオープンした「キッザニア甲子園」に「電力会社バビリオン」を出展

## ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーション

当社グループは、お客さまからご意見をいただいたり、また、当社の思いや考えをお伝える機会を積極的に設けています。さらに、各種刊行物やインターネットなどさまざまな広報媒体を活用した情報発信をおこなっています。

### お客さまとの多角的な対話

#### 原子力発電への理解を促進

当社がお客さまにお届けする電気の約半分は、福井県にある原子力発電所でつくられています。また、原子力は発電時にCO<sub>2</sub>を排出しない環境にやさしいエネルギーです。つまり、原子力は暮らしを支える電気をつくるために欠かせないだけでなく、地球温暖化防止対策を進める上でも重要な役割を果たすといえます。当社は、原子力に対するみなさまのご理解を深めていただけるよう、さまざまな活動を進めています。

#### ●原子力関連施設の見学会

当社は、お客さまに福井県にお越しいただき発電所など原子力関連施設を見ていただく見学会を実施しています。2008年度は約3万4,000人の方にご参加いただきました。



原子力研修センターの見学会  
※見学会についての詳細は最寄りの当社営業所にお問い合わせください。

#### ●電気の生産地と消費地との交流

当社は、電気の生産地と消費地で暮らす人々の交流を通じて、エネルギーについて一緒に考えていただく機会を設けています。2008年度は、大阪のスタジオを拠点に高浜町と神戸市の小学校をブロードバンドで結び、交流授業を実施。講師の説明やクイズ、それぞれの学校紹介によって、エネルギーや地球環境問題だけでなく、お互いの地域についても学び合いました。



高浜町と神戸市の小学生との交流授業

#### 次世代層への教育

##### ●「出前教室」の実施

当社は、将来を担う子どもたちにエネルギーを身近に感じてもらい、その大切さを伝えることが、とても重要だと考えています。そこで、当社従業員が地元の小・中学校などにお伺いし、エネルギーに関する授業「出前教室」をおこなっています。

この「出前教室」では、発電や送電のしくみのほか、電気の使われ方や省エネ、地球環境問題などについて説明をしています。また、手回し発電機を回して電灯を点灯させたり、地球温暖化実験装置を使ってCO<sub>2</sub>が地球温暖化に影響していることを説明するなど、エネルギーについて楽しく学んでもらえるように実施しています。



出前教室では地球温暖化のしくみなどをわかりやすく説明

## Voice

### 好印象を心がけ、当社のファンづくり

第一線職場の広報担当者として、主に施設見学会や「出前教室」、地域イベントへの出展など、さまざまな機会を通じて、当社事業を理解していただく活動に取り組んでいます。私は、お客さまと接するうえで、「限られた時間でいかに相手の心をとらえ、当社のファンになってもらうか」を常に考えて行動するようにしています。具体的には、まず、相手に好印象を与えることが大切と考え、子どもには楽しいイメージを、大人には誠心誠意で接する真摯な姿をご覧いただくよう心がけています。また、お客さまとの直接のコミュニケーションを大事にするとともに、お客さまのお話をしっかり聴く姿勢も守るよう努めています。こうした地道な行動こそが、当社のファンになっていただくきっかけとなり、理解の輪が広がることにつながるものと確信しています。



北摂営業所 所長室  
赤迫 洋治

#### ●「キッザニア甲子園」にバビリオンを出展

2009年3月にオープンした「キッザニア甲子園」（兵庫県西宮市）は、子どもたちが好きな仕事を体験するなかで、社会のしくみを学ぶことができる職業・社会体験施設です。当社はここに「電力会社バビリオン」を出展。停電復旧作業の体験を通じて、「電気」の重要性や電気を守る仕事への認識を高めてもらうとともに、使命感を持って仕事をやり遂げることの素晴らしさを感じてもらうことができればと願っています。



「キッザニア甲子園」の「電力会社バビリオン」にて

### 各事業所におけるコミュニケーション

お客さまをはじめステークホルダーの方々に、当社の事業活動についてご理解を深めていただき、また、ご意見やご要望を頂戴して事業活動に反映するため、各事業所は、お客さま宅を訪問するほか、地域の有識者やオピニオンリーダーの方々を対象とした懇談会を開催しています。



当社主催の懇談会を積極的に開催



地域のみなさまとのコミュニケーション活動

### PR施設の設置による地域社会との交流

当社は、地域のみなさまに事業活動や電気事業の取組みについてご理解をいただくとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めるため、発電所などにPR施設を設けて一般の方々にご利用いただいています。

2008年7月には、福井県おおい町の臨海リゾート施設「うみんぴあ大飯」内に「エルガイアおおい」をオープン。世界最大級のバーチャルシアターなどを備え、エネルギーと地球の未来を楽しみながら学べます。



巨大バーチャルシアターを備える「エルガイアおおい」

- オピニオンリーダー：世論形成に影響力を持つ人。

また、2009年3月には、大阪市住之江区の南港発電所内にあるPR施設「エル・シティ館」をリニューアル。力・磁石・光・熱などさまざまな不思議な科学現象を、展示物や映像で興味深く学べます。



南港「エル・シティ館」は科学をテーマにリニューアル

### インターネットによる情報発信

迅速で正確な情報発信をめざし、記者会見の内容のほか、当社のメッセージや各種情報をホームページに随時、掲載しています。

また、インターネット会員倶楽部「かんでんe-Patio」（会員数約35,000人）では、メールマガジンとホームページで情報を発信しています。

いずれも、メールによるお問い合わせ窓口を設置し、双方向でのコミュニケーションを積極的に進めています。



関西電力のホームページ（随時更新）



「かんでんe-Patio」（随時更新）

### コミュニケーション誌による情報発信

関西電力グループの事業活動をお客さまにより広く、また、より深くご理解いただくため、刊行物などによる情報発信を展開しています。

社会性、時事性の高いテーマについて深く掘り下げた情報を発信するオピニオン層向け広報誌『躍』や、暮らしや地域にまつわるトピックスに加え、当社およびグループ事業を紹介するPR誌『わっと』を定期的に発行しています。



「躍」（年4回発行）



「わっと」（年4回発行）

### お客さまの声を全社で共有

毎日の業務のなかで、また、地域のみなさまとの交流の場で、当社は事業活動に関するさまざまなご意見やご要望をいただきます。その一つひとつを大切に、それぞれの事業活動に反映するため、多種多様な広聴活動を展開しています。なかでも1994年に開始した「ダンボの声」では、当社従業員が集めたお客さまのご意見を関係のある各部門に伝え、業務改善に役立てています。



## 報道機関への対応

テレビや新聞が報じる情報は、お客さまの当社に対する理解やイメージを大きく左右します。そこで、当社は定例社長会見をはじめ、報道機関への情報提供を積極的に実施するとともに、報道機関からの取材にも迅速に対応し、正確な情報開示や伝達をおこなっています。



記者会見

## 社内コミュニケーション

経営情報を共有・理解するために、また、社内の一体感を醸成するために、従業員間・職場間のコミュニケーションの活性化に努めています。

経営情報を従業員一人ひとりに確実に伝達するため、社内ポータルサイトを通じた即時性の高い情報発信をおこなっています。また、毎月発行する社内報『関西電力新聞』では経営情報などを詳細に解説し、とくに重要な情報については、臨時号を発行したり、特集として編集し、内容をわかりやすく解説するなど、従業員への適時的確な情報提供を実践しています。発行後はアンケートを実施し、従業員にとって役立つ情報源となるよう随時、見直しを図っています。さらに、経営計画など経営層の思いを従業員にダイレクトに伝える必要がある場合は、社内テレビを放映しています。



『関西電力新聞』（毎月1回発行）で適時的確な情報発信を実現



全社共通ポータルで情報をタイムリーに発信

一方、原子力部門の従業員と協力的で働く人たちを対象としたコミュニケーション誌『わかさ』を定期的に発刊しています。原子力に関するトピックスなどを共有し、社内に安全最優先の意識を浸透させるとともに、協力的で働く人たちも含めた一体感の醸成や活力ある原子力職場づくりをめざしています。



原子力職場の一体感を醸成する『わかさ』（隔月発行）

## 株主・投資家の方々への情報発信

当社は、投資家のみなさまに公平で迅速な情報発信に努めています。国内や海外の機関投資家、個人投資家、公共団体など、多岐にわたる投資家のみなさまに対し、さまざまな方法で情報を提供しています。

### 会社説明会・投資家訪問

社長による「会社説明会」や、社長を含めた役員による国内外の「投資家訪問」を定期的に実施し、経営者自らが積極的に投資家のみなさまとの対話を図るとともに、資本市場の声を経営にフィードバックするなど、双方向のコミュニケーションに努めております。

### IR ツールでの情報開示

株主・投資家のみなさまに対して、当社事業の概要や、経営目標、財務データなどを提供する冊子を作成し、ホームページにも掲載しています。



『Annual Report』  
（海外の株主・投資家のみなさまや取引先に向けて経営内容の総合的な情報を掲載：年1回発行）



『Fact Book』  
（経営目標や販売電力量、設備投資額、財務諸表の経年データなどを掲載：年1回発行）



『Kandendayori』  
（株主さま向け会報誌・年2回発行）



『企業情報 / IR』  
（当社 HP サイト・随時更新）

Web 「株主・投資家の皆さま (IR 情報)」  
<http://www.kepco.co.jp/ir/index.html>

# コーポレート・ガバナンス

関西電力グループは、事業運営の透明性や健全性を保ちながら、企業価値の持続的な向上を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な取組みと位置づけ、その実現に努めています。

## 業務執行の適正の確保

当社は、定例取締役会を毎月1回、必要に応じて臨時取締役会を開き、経営上重要な事項について審議・決定するとともに、取締役の職務の執行状況について定期的な報告を受け、取締役を監督するなどコーポレート・ガバナンスの充実にも努めています。

さらに、重要な業務執行については、迅速で適切な意思決定を実現するため、役付取締役により構成する常務会を原則的に週1回開催し、効率的かつ効果的な会社運営を実施しています。また、経営の執行機能と監督機能を分け、業務執行の迅速性と効率性を高めるために、執行役員制を導入しています。

## 透明性と健全性の確保

当社は、監査役制度を採用しています。監査役は、取締役会や常務会などの重要な会議に出席し、意見を述べ、取締役から経営上の重要事項に関する説明を聴取するとともに、主要な事業所やグループ会社について、その業務や財産の状況を調査するなど、取締役の職務執行について適法性や妥当性の観点から監査することで、事業運営の透明性と健全性を確保しています。さらに、代表取締役などとの間で定期的に会合を開催し、意見交換を実施しています。

また、監査役と監査役会の職務を補佐するため、監査役室（13名）を設置しています。これは監査実務や監査役会の運営などを担当する専任組織であり、その独立性を担保すべく、監査役直轄とし、当社グループの執行に係るいかなる職務も兼務していません。

なお、社外役員は、社外取締役3名、社外監査役4名を選任しており、監査役7名のうち過半数が社外監査役となっています。社外取締役および社外監査役と当社との間に特別の利害関係はありません。

## 事業活動に伴うリスクの管理

事業活動に伴うリスクは、「関西電力グループリスク管理規程」に基づき、各業務の執行部門が自律的に管理することを基本とし、組織横断的に重要とされるリスクに関しては、必要に応じて、専門性を兼ね備えたリスク管理箇所を定め、各業務執行部門に助言や指導をおこなうことでリスク管理の強化を図っています。

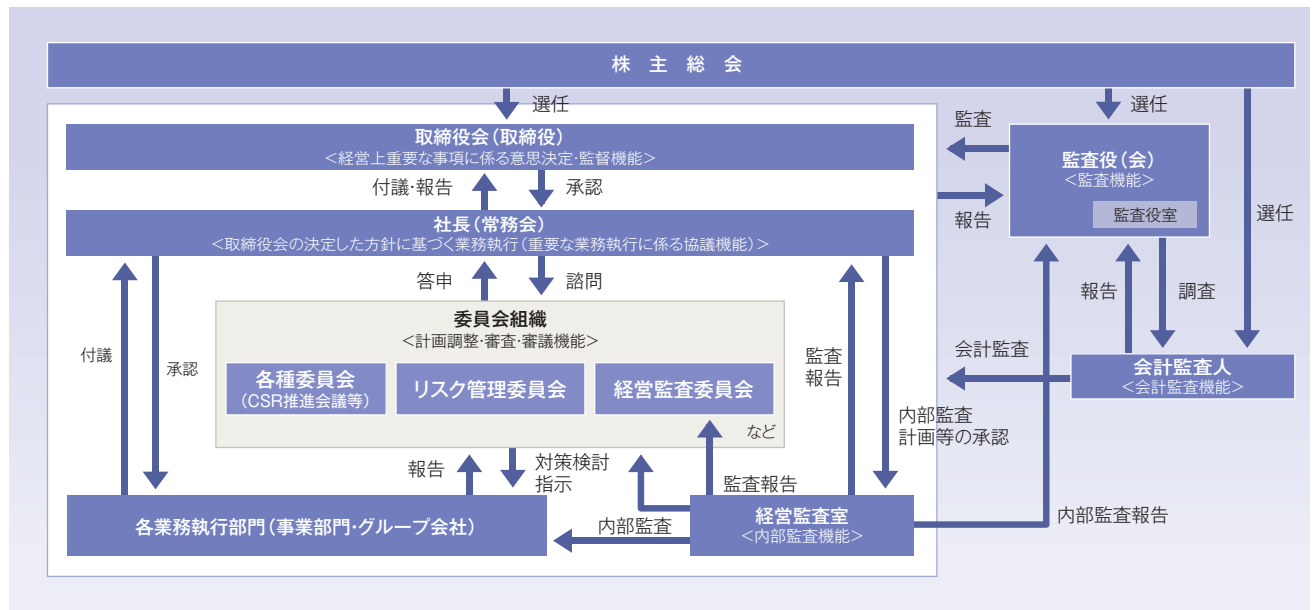
さらに、リスクを統括的に管理する「リスク管理委員会」を設置し、当社グループの事業活動に伴うリスクを適切なレベルに管理するよう努めており、こうしたリスク管理体制のもと、金融商品取引法の定める適正な財務報告およびその信頼性の確保に積極的に取り組んでいます。

## 内部監査機能の充実

当社は、品質・安全に関する経営上の諸問題を幅広く共有・審議し、社外の見識や情報を取り入れ、公正で専門的な立場から当社グループ全体の内部監査の適正を確保するため、「経営監査委員会」を設置しています。

また、内部監査の専任組織として「経営監査室（42名）」を設置しており、リスク管理体制とリスクの管理状況などについて定期的に監査するとともに、内部監査計画とその結果について常務会に付議・報告をおこなっています。また、各職場は監査結果を踏まえ、必要な改善活動を進めるなど、適正な業務運営の確保に努めています。

経営監査室、監査役および会計監査人は、コーポレート・ガバナンスの重要な担い手として適宜、連絡を取り合いながら監査を実施するとともに、監査結果について意見を交換するなど、互いに緊密な連携を維持しています。



## 取組みへの評価

■2008年度は、当社の事業活動について適時的確な情報発信をおこなうだけでなく、原子力関連施設見学会や次世代層向けの出前教室など、より質の高い「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」の展開に努めました。

■「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」のほか、日々の業務を通じてお客さまからいただいた貴重なご意見を事業活動に反映するように努めました。

### 社外の方からの主なご意見

- 原子力関連施設見学を通じて、何重にもわたるチェック体制など管理がしっかりしていることがわかり、安全性が確保されていると感じた。
- 今回の施設見学会で、原子力発電はCO<sub>2</sub>削減にも大きな役割を果たしており、地球温暖化防止のためにも必要であると思った。
- 出前教室では、たくさんの実験器具を持ち込み、生徒たちに体験させるということは非常によかった。「環境」というテーマを通じて、エネルギーについて学習ができ、大変役立った。
- 「エルガイアおい」では、子どもから大人まで楽しみながら、地球環境問題をはじめエネルギーについて勉強することができてよかった。

### 専門家の方のご意見

コミュニケーション・コンサルタント  
株式会社ユニカルインターナショナル  
チーフトレーナー

川村 秀樹 氏



最近、エネルギーや環境問題など、電気事業者とステークホルダーが共有すべき社会的な問題が多くなってきています。

このような状況下で、これまでの「事業者対顧客」、「事業者対地域住民」という対立の図式で事業者側から一方的に情報発信する広報活動から、「事業者と顧客」、「事業者と地域住民」が「協働」の図式による双方向のコミュニケーションを図る広報活動へ変化してきています。

そのためには、事業者には顧客や地域住民などステークホルダーの立場にたって、問題の本質をよりわかりやすく説明していくことが必要となります。

こうした企業の姿勢が事業活動全般の透明性を高め、ひいてはステークホルダーからの信頼獲得につながるものと考えられます。

今後、エネルギーや環境を取り巻く世界的な議論が進展するなか、よりきめ細かいコミュニケーション活動を推進されていくことを期待します。

### 2009年度以降の方針

当社は、これまでも原子力・低炭素社会への対応など当社事業の理解獲得、そして社会のみなさまに選んでいただけの企業グループをめざし、迅速・正確な情報発信をおこなうとともに、社会のみなさまとのコミュニケーション活動を推進し、いただいたご意見・ご要望を事業活動に反映してまいりました。

今後も、事業運営における公正さを確保し、社会に対する説明責任を確実に果たしていくために、ホームページやPR誌、報道機関を通じた発表による情報発信を積極的におこなうとともに、次世代層教育や地域のオピニオン

リーダーとの交流を通じた「フェイス トゥ フェイスのコミュニケーション活動」を継続していきます。

関西電力株式会社  
執行役員  
地域共生・広報室長

八嶋 康博

